

## 情報数学 III これからのこと（授業評価アンケートより）

- 例題の解説をもっとやってほしい

毎年、このような意見を書く学生がいますが、君たちが理解できないのは私が解説する例題が少ないからではありません。概念を理解し、標準的な問題を解くのに必要な例題は解説しています。

- 板書が速いのでノートが取れない
- 講義ノートを配布してほしい

話を聞きながらメモをとる技術は必要です。ノートのとり方を工夫するなどしてください（授業で説明することはかなり直前に確定します。ノートを作って配布するようなことはしません）。それでも、「授業中に教師の話を聞くことに集中したい」というのであれば、あらかじめ予習をしておくことを薦めます。

小学校教育から大学教育にいたるまで、「書いて学習する」ことを効率化してはいけない  
(阿原一志氏のブログ (<http://ameblo.jp/kazuaha63/entry-10967504724.html>) より引用)

電子教科書から離れて、僕個人は「授業中にノートをほとんど取らない授業の受け方」というものがあると考えている。ただしそれは、教科書を予習して前もってノートを作っておき、授業を聞きながら、ノートに先生の話の補充していく、というノートの取り方で、先生の話の話を集中して聞くには効果のあるやり方であると思う。しかしこれはかなりの時間を予習に割かねばならず、全員の生徒がすべての科目にこれを行えるとは思わない。一歩進んだ授業の受け方の一形態であるといえよう。

- 小テストの詳細な解説が欲しい

小テストの問題の解き方がわからないときは、その回のレポート問題の同じ番号の問題を考えてみてください。それでもわからないのであれば、極めて基本的な知識（定義など）が欠落しているのでしょう。

本を読もう – 自立への第一歩

(山田光太郎 著 (数学ガイダンス hyper (技術評論社) より引用)

大学生のみなさん、大学で「勉強する」とはどういうことだと思いますか。（中略）講義を聴いて、ノートをとって、問題を解いて、試験前に公式や定理を覚えて、単位をとって、そんなことを思い浮かべるでしょうか。このような方法で学生諸君に情報を提供し、知識を得てもらう。それも大学が学生諸君に勉強してもらうためのサービスの一部ですが、ほんの一部でしかありません。

大学がもっとも自信をもって提供できるサービスは「本」と「人」。（中略）このサービスの特徴は「サービスを受ける側に明確な意思がないと提供されない」ことにあります。あなたが出向かなければ図書館は存在しないし、訪ねてみなければ教員は教壇の上の映像に過ぎません。なぜ、こんなに不親切なのでしょう。それは、大学が「知識を教える」ところでは

## 情報数学 III これからのこと（授業評価アンケートより）

なく、学生諸君が「知的に自立する」ことを助けるところだからです。（中略）

そこで、皆さんには、自ら知識を得ることを体験して欲しいのです。（中略）本当に知りたいこと、本当に面白いことは誰も歩いたところのない道の先にあります。そういうところまで歩いて行くことができるために、自分の頭の使い方を身に付けてください。それが知的自立への第一歩です。

- 教師の説明のスピードが速い
- もっと落ち着いてしゃべって欲しい  
気をつけます。
- オフィスアワーが金曜日なので、レポートについての質問ができない  
質問はオフィスアワー以外でも受け付けます（月曜日の午後は時間が空いている。私の web サイトの時間割を参考に）。